

日 時 : 2013 年 2 月 21 日(木) 13:00 ~ 17:00
 場 所 : 塗料報知新聞社 会議室
 出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、内山貴識(東和酵素(株))、宮川昇(同)、高橋大(株三王)、
 早川政男(第一塗装工業(株))、石塚智之(同)、小泉栄(株小泉塗装工業所)、河本謙一(同)、
 島田哲也(旭サナック(株))、杉山博英(アネスト岩田(株))、藤井俊治(株三菱化学テクノリサーチ)
 木下稔夫(東京都立産業技術研究センター)、
 幹事: 平野克己(日本塗装機械工業会)、福田良介(日本パウダーコーティング協同組合)
 アドバイザー: 坂井秀也(坂井技術士事務所)
 オブザーバー: 田村吉宣(いすゞ自動車(株))
 ゲスト: 岡田久佳(岡久(株))、田辺直((有)タナベ塗工所・愛車館タナベ(有))
 事務局: 有馬弘純(塗料報知新聞社)

17 名 敬称略

***** 議 題 *****

冒頭、自己紹介からはじめた。

今回、新潟から塗料販売店の(株)岡久と金属屋焼付塗装・乗用車板金塗装のタナベ塗工所・愛車館タナベの両社がゲストとして参加した。また、小泉塗装工業所からは河本氏、東和酵素からは宮川氏が初参加であった。

1. セミナー実行委員会報告(岡山県セミナー)

同日午前中に開催した「岡山県塗装技術研究会講習会開催(3 月 12 日)への環境技術分科会の対応」について発表した。早川氏からは、日本工塗連での認知が不透明な点や組織拡大に繋げる一環なのかが指摘された。

平野氏からは協議会の規約の説明があり、今後は理事会を設け、役割を明確にして進めて行くのが望ましいとの意見を出した。

2. ゲストのプレゼン

<岡久・岡田久佳専務取締役>

工業塗装ラインがストップした際に販売店が対応している。販売店において対応に差がある。新潟で勉強会を開くことがあれば、日本海側の地域からの集まりも期待できる。先々塗装研修センターを作りたい。

<タナベ塗工所・愛車館タナベの田辺直代表取締役>

バブリングブース(特許申請中)で、3 月 20 日に本機完成予定。小型の塗装ブースとしてウォーターカーテン付ベンチュリブースより電力使用量で2割減が可能、構造が簡単で消耗品が少なく装置も低コスト。

バブリングブースは、ベンチュリブースの水膜板に代わり、メッシュ状ロールに泡を付着させ泡の壁を生成し、泡に塗装ミストを付着させる方式。泡膜の間から空気を吸い込むため、空気抵抗が少なく吸気ファンの能力を小さくでき、ウォーターカーテン用の水を汲み上げるポンプも不要のため省電力のブースとなる。

参加者からは、連続の泡膜生成の工夫は珍しい(田村)、VOC 処理能力を計測し効果を示してほしい(木下)、泡にミストが付着し泡が消える現象を高速度カメラで写し、吸着のメカニズムを技術的に示すことを望む(平野)、キーエンス等から高速度カメラを借りることができる(坂井)といった声があった。

今後の進捗報告と実機見学を行う。

3. SURTECH 出展報告

全体の来場者は4万6千人。

展示パネル、表彰状など閲覧した。木下、高橋氏の協力があり、ブースに展示するパネル作成など進めることができた。CEMA としては、今回はカタログ展示であったが、来年は4社ほどの出展を募る予定。

4. 環境技術分科会取組みの四つのテーマ(進捗)

①塗装の社会的評価(小泉・高橋)

総務省へのヒアリングを行った。2月20日に今回の申請は終了しており、5~6年後に工業塗装業を入れることを目指す。中分類に入るには大分類の10分の1が必要。24の中分類に金属製品製造業がある。プラスチック塗装は工業用プラスチック製造業に該当する。6,000社ないと細分類にならない(河本)。

②サポインの横展開(木下、窪井)

東京と地方の温度差をなくすために行政への働きかけが大事。管理団体の見つけ方が重要になる。

日本塗料工業会の当会参加など業界ネットワークを強化し、業界全体で推進を担う。

中四国セミナーで案内書を配布してはどうか(島田)。

③環境対策(内山、早川、小泉、藤井)

・排水: 廃水ガイドラインを作成する。

電着ラインの漏えい堤防製作は計画策定中。保護被膜の材料にゴム系材料を調査中で、

ポリウレタは効果が大きいが高価格なので、アロマクロン(米国製)など検討中。

・大気改善: ナイトロサーモスプレーシステムのトライアルは費用面でペンディング

<情報>

厚労省から労働安全衛生法の改正の中で、塗装環境においてクリーン度が確保できるのであればブースダクトによる室外へ排気するような局所排気装置が不要になる可能性がある(早川)。

・産廃: 塗料滓のペレット化による燃料への転用は、燃焼試験を計画中であるが、燃料ペレットを生成する塗料滓が不足しており塗料滓の収集方法を九州と四国地方で展開中。

6月を目標に九州工塗協にて産廃ゼロのスローガンをスタートさせ、全国に先駆けモデル化を進行させる。

一方、燃焼装置の開発は、稲田塗料殿にて考案中。花菱ともう1社の協力を経て来年度中に試作品を開発する計画を策定中。

④塗装の生き残り策(平野、福田、島田、杉山)

まず調査が必要。工業塗装研究会の設置の提案(平野)。技術や夢の話をする場づくり。東京都立産業技術研究センターに登録されていた工業塗装研究会の再活用(木下)。

5. オートモーティブ・サークル・インターナショナル(参考)

世界の自動車メーカーが参画し、オープンな姿勢で技術を持ち合い討論するオートモーティブ・サークル・インターナショナル(ドイツのコーティング関連出版社が事務局)がある(田村)。これを模したジャパン・コーティング・サークルの立ち上げを意識した活動をしていく(有馬)。

※次回分科会開催予定

第46回環境技術分科会 2013年4月11日(木) 13時 ~ 17時 塗料報知新聞社 会議室

————— 以 上 —————